

会 議 記 録

会議名称	平成 25 年度第 3 回 杉並区立図書館協議会
日 時	平成 25 年 11 月 30 日 (土) 午後 2 時 01 分 ~ 午後 4 時 15 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 視聴覚ホール
出席者	委員 赤荻、中島、笹井、原、竹田、原田、石橋、高野、川田、澁川 区側 中央図書館長、中央図書館次長、管理係長、管理係主査、企画運営係長、 情報化担当係長、資料相談係長、事業係長、柿木図書館長、 高円寺図書館長、永福図書館長、宮前図書館長、成田図書館長、 阿佐谷図書館長、高井戸図書館長、方南図書館長、南荻窪図書館長、 下井草図書館長、今川図書館長
配付資料	資料 1 平成 25 年度上半期 取組状況 資料 2 平成 26 年度杉並区立図書館経営評価について 資料 3 平成 25 年度子ども読書活動推進計画進捗管理票 参考 ・杉並区立施設再編整備計画（第一期）第一次実施プランより抜粋 ・広報すぎなみ 特別号 杉並区立施設再編整備計画（素案）について
会議次第	1 開会 2 中央図書館長挨拶 3 議題 【報告事項】 (1) 平成 25 年度上半期取組状況について (2) 子ども読書活動推進計画の進捗状況について (3) その他 【審議事項】 (1) 平成 26 年度杉並区立図書館経営評価について 4 閉会

図書館長挨拶：区立施設の再編計画について

中央図書館次長 定刻になりましたので、第3回の図書館協議会を開会します。議事に入る前に中央図書館長よりご挨拶を申し上げます。

中央図書館長 第3回の図書館協議会にお越しいただきましてありがとうございます。前回に引き続き杉並区立施設の再編の進捗についてお話ししたいと思います。お手許のカラー刷り「広報すぎなみ特別号」は、今杉並各地域において施設再編についての説明会でお配りしている資料です。

内容は、このことに関して寄せられているご質問の多い事項をQ & Aの形式にまとめています。全体については後ほどお読み頂きたいと思いますが、説明会では児童館が廃止されてしまうという心配が特に多いようで、区側の説明が足りないこともあるのでしょうか、いろんな形でご質問が出ております。正しくは以下のとおりです。

児童館の行っている事業、あるいは機能は、場所を変えて引き続き行って参ります。ですから児童館でやっていることが廃止されるということではありません。むしろ児童館の利用が増加している中で、今の児童館の建物ではサービスが十分提供しきれないという判断から、子どもセンターという新たな機能を拡充した上で施設を学校に移し、この事業を行うということです。

図書館について若干ご説明をさせていただきたいと思います。参考資料というホチキスでとじたものが、2枚のものがあると思いますけれども、前回9月のときには、中間のまとめということでございましたけれども、この11月14日に公表しましたものでは素案という形になっておりまして、その中の素案の一部を抜粋したのがお手元の資料です。

図書館については、地域住民の利便性の向上を図るため、高円寺地域における図書館のあり方について検討します。前回は、高円寺の地域に既存施設を利用して、2館目の図書館の設置、つまり1地域2館を構想していましたが、区民の方々はじめ、議会の意見もありまして、高円寺地域における図書館のあり方全体を検討することにいたします。

それから高円寺駅前の図書サービスコーナーについてですが、前回、今の場所をホテルメッツという駅に直結した建物にあるものを、近隣の施設に移してサービスを続けるということでしたが、高円寺駅前図書サービスコーナーについては、高円寺地域と図書館のあり方と合わせて検討することになりました。そのスケジュールは、前回

の時期を前倒しして、26年度、27年度の2カ年かけて検討することになりました。

京王線の桜上水駅のところに区民事務所の分室があって、住民票等の証明書の発行などをしてありますが、今後はそれがコンビニで行うこともあって、廃止されることが再編整備に入っています。その施設の空いたところに図書のサービスコーナーを27年の1月に新設します。

中央図書館ですけれども、これは27、28年度に設計、改修することになります。同じように老朽化した4館の改築については29、30年度で検討していくことになりました。

また省スペースを実現するための蔵書数の見直しは、26年度から3カ年かけて検討、実施します。蔵書数の削減のところですが、前回も協議会で話題になりましたが、これについては既存のものを一律に削減するということではなくて、タイトル数を維持しながら、利用状況を考えて、副本（同じ本）を除籍していくというような手法によりまして削減することを考えています。

なお施設再編計画については、前回までに説明したことと異なった部分がありますので、それらについては、いろんな形で意見を承る機会があります。この後のことでは、12月の15日に区民との意見交換会がありますし、1月にはパブリックコメントで、区民意見の募集を1カ月行います。そういった機会を通じて提案して下さるようお願いいたします。

議事

会長 それでは、会議を進めます。今日の議題は、審議事項1件と報告事項2件です。報告事項、審議事項の説明を順次行い、その後質疑に入ります。

§ 報告事項1：平成25年度上半期の運営状況

中央図書館次長 平成24年度には図書館サービスの基本方針の作成、新図書館システムの導入、そして指定管理及び業務委託の事業者の決定など、大変重要な動きがありました。日常的な運営では、杉並区立図書館全館におけるあかちゃんタイムの実施によって、乳幼児の保護者への読書活動の推進が図られたこと、学校司書との連携が一層進んだことがありました。さらにボランティアとの協働の面では意見交換や協働事業の開催が着実に進んで行われてきました。また、講演会や図書の展示についても、各館

で創意工夫のもと取り組んできたというところが見てとれると考えてございます。今後の課題では、小・中学生の利用の促進やボランティアとの一層の連携に努力しなければなりません、その根幹にある図書館の活動をもっと区民に周知する工夫をしていく必要があるのではないかと考えております。続きまして今年度の運営状況を各館毎に報告します。

《中央図書館の状況》

中央図書館次長 中央図書館では、「図書館サービス基本方針」に掲げられている学びの場、知の共同体、楽しい交流空間としての図書館などの方向を着実に実現できるように、館の年間基本方針を含む事業計画に基づいて、事業を進めております。

【以下箇条書きにまとめる】

1 資料の充実

資料のデジタル・アーカイブ化とそれに伴う情報の収集、電子化に伴う情報の収集と研究

外国語資料の収集

2 誰もが利用しやすい図書館への改善

トイレの改修

図書館ボランティア養成講座実施計画の策定。平成 26 年 1 月以降実施予定

中央館の委託事業者においてインカム（構内通信機器）を導入し、コミュニケーションの迅速化により接客対応を改善

3 レファレンスの充実

有料データベースほかの追加

レファレンス技量の向上に向けた職員研修

4 講座、講演、行事の開催

地域の専門家や外部の著名人の方々に依頼するなどして読書活動の促進に役立つ催しの実施

工作会など子供から大人まで図書館の利用を促す内容の企画

なおこの面では図書館ボランティア養成講座の実施を予定しており、ボランティアとの協働が一層図られるものと期待している。

5 快適な読書環境の整備

平成27年度の中央図書館大改修に向けての取り組み開始

書架の整理整頓、館内の美化、そして巡回などの頻繁な実施

6 子ども読書活動の推進

ブックスタート事業およびあかちゃんタイムの実施

夏期休暇中の調べ学習のための支援

ヤングアダルトコーナーの展示

7 他機関との連携

子ども読書活動推進委員会との連携

教育委員会生涯学習推進課との連携

中・小学校学校司書との連携

8 その他

職員人材育成のための各種研修の実施

特筆すべきことは、今年度新たな取り組みとして行うビブリオバトルの研修を実施。ビブリオバトルの有効性を検証して、図書館サービスへの活用を研究する。

区広報・ホームページ以外の新聞やタウン誌（「荻」ウォーカー）などを通じての杉並区立図書館情報の発信

実績として「高円寺ウォーカー」への高円寺図書館の情報掲載に協力している。

中央図書館次長 以上が上半期の運営状況の報告ですが、今後の課題で重要なものは区立施設の再編整備計画に基づく図書館のあり方についての検討、そして蔵書規模の適正化を図るための除籍の方法についての検討です。

これ以降各地域図書館館長がそれぞれの館の報告を行います。

《平成25年地域図書館の運営状況》

永福図書館

永福図書館長 平成24年度の運営については、資料の更新、読書環境の整備面で利用者ニーズに対応し切れなかったこと、それから、ヤングアダルト世代（12歳から18歳）の図書館利用開拓につながる事業が実現できなかったことが反省点と総括しました。一方、新たにあかちゃんタイム、近隣児童館への出張ブックトーク（1・2歳児対象）を開始し、「0・1・2さいのわらべうたとえほんの会」を含めて定例で開催しており、乳幼児と保護者の図書館利用促進に努めました。今年度の事業計画では、利用

者目線で利用者ニーズを第一に考えた資料の収集・提供・保存と、使いやすく快適な施設となるような環境改善を年間基本方針に掲げ、図書館の運営に取り組んできました。以下に実現、もしくは実施した事項を選んで報告します。

【以下箇条書きにまとめる】

1 資料の充実

分担重点収集分野(政治、法律)の他に所蔵の図書で内容の古くなったコンピュータ関連と自然科学医学分野の蔵書をリニューアル

2 誰もが利用しやすい図書館への改善

旅行ガイドの書架を、地域、内容、テーマでまとめて、探しやすいように工夫
持ち込みパソコンの利用可能席を一般閲覧室と分離(中二階)

全体的に読書環境の整備を図った。なおこの席は人気が高まり、予約待ちができる状況となったので、その受付法や利用案内を改訂

3 子ども読書活動の推進

ヤングアダルト世代に対する図書館利用推進事業策定の情報収集のため、泉南中学校図書室見学と図書委員(生徒)との懇談会の開催(同校の職場体験学習を受け入れている。)

4 講座、講演、行事の開催等

隣接児童館が開催した「プレママ倶楽部」で出張ブックトークを実施
読書関連活動を実施している地域の二団体と協力関係を築き、今年度下半期(10月、11月、1月)に実施予定の事業に協力

5 取り組みに対する評価と課題

あかちゃんタイムは、昨年度の反省を踏まえて時間の変更、参加者とのコミュニケーションの見直しを行った結果、参加者が増加
ヤングアダルト世代への図書館利用促進事業の新たな施策としてヤングアダルトコーナーに「YAつぶやきBOX」と掲示(許可制)を設置
重要課題は、老朽化(築48年経過)した施設の安全管理と設備面での維持管理

柿木図書館

柿木図書館長 24年度の運営では、利用者の来館時の挨拶やOPAC等の利用に戸惑っている方への声かけなど、明るい接客を行うことを目標にしました。館内整理日

を活用し全職員を対象にした接客研修を行い、接客の向上に努めました。この間、区
の主導の職場診断の中で接客診断が行われ、柿木図書館は高い評価を得ることができ
ました。しかし館内の掲示物が古くて見苦しいものがあるとの指摘も受けており、改
善の余地があるというふうに考えています。またあかちゃんタイムは、児童スペース
が狭くて実施しにくい状況でしたが、通路にマットを敷くなどの工夫をして、24年度
から開始しました。今まで図書館になかなか来られなかった層の人たちにも、気軽に
図書館に来ていただけるきっかけになったと考えています。

25年度の事業計画では、「図書館サービス基本方針」と「杉並区子ども読書活動推
進計画」に基づき、学びの場、知の共同体、楽しい交流空間としての図書館を目指し、
新たな事業に積極的な取り組みを行っているところです。

【以下箇条書きにまとめる】

1 資料の充実

分担収集（総記、自然科学、医学・薬学等）の資料を積極的に充実
破・汚損した児童書を積極的に更新し、魅力的な書架づくりを実行中

2 誰もが利用しやすい図書館への改善

あかちゃんタイムを充実させるために近隣の児童館に職員を派遣（毎回10組以
上参加）、乳児対応のノウハウの習得に努めている

玄関前階段に手すりを設置、駐輪場・敷地内の整備

スロープは設置されているが、回り道になると不評であった。

3 人材育成・研修計画

調べものの相談に関連し職員研修（都立中央図書館等に派遣）充実したレベル
には到達していないという実感がある。

4 講座、講演、行事の開催

一般利用者向けに子供の読書週間に合わせた過去のポスターを紹介する「こど
もの読書週間ポスター展」を実施

月例企画展示の充実

担当の職員数を増やし、展示内容を組織的に検討して行っている。事例とし
て、科学館の事業「すぎなみ・星と宇宙の講演会」に連動した関連図書・資料
展示

5 ボランティアとの協働：おはなし会の充実

従来2団体（四宮おはなしの会、リプリント）と連携して行っていたが、今年度から2名の個人のボランティアと協働。おはなし会の前後にミーティングを行い、内容の見直しや問題の把握を行う。

6 快適な読書環境の整備

破損した閲覧者用椅子の更新

老朽化した館内掲示の付け替え

7 子ども読書活動の推進

落語おはなし会、紙芝居「すぎなみのむかしばなし」、夏休みスペシャルお話し会、「おもしろ理科教室～双眼実体顕微鏡をのぞいてみよう」など小学生向け事業を実施

近隣の小学校2校の1・2年生対象のブックトークを実施

各学期にそれぞれクラスごと1回ずつ、合計20回行った。

読書相談を超えた学校司書との連絡

実施例はないが、連携強化の必要性を実感している。

8 他機関との連携

「おもしろ理科教室 双眼実体顕微鏡をのぞいてみよう」に関する科学館との連携

それぞれの館の担当者間の協議が密に行われ、成功裡にこの事業が実施され、今後の展望が開かれた。

児童館との連携：児童館利用者に対する図書利用の説明など

9 取り組みに対する評価と課題

科学館との協働事業の進展

先に挙げた協働事業の成果として図書館の中に「科学館コーナー」展示を行い、図書館利用者へ科学館を紹介すると同時に、科学館がその見学者に柿木図書館の紹介するなど、協働事業が進展したことを評価している。

学校司書との連携強化の必要性

高円寺図書館

高円寺図書館長 高円寺図書館の上半期の取組状況を報告します。24年度の運営では、10月のシステムの変更に円滑に対応することが一番の課題でした。また、カウン

ターでの接遇、それに職員が常駐していない3階スペースでの適正な利用マナーの維持でしたが、これらが今年の課題ともなっています。以下今年度の上半期の取組状況の中で、幾つか特徴のあるところを報告いたします。

【以下箇条書きにまとめる】

1 資料の充実

蔵書の全体のバランスをとりながら日本十進分類法の総記部門、哲学・宗教部門、歴史部門、社会科学部門の所蔵図書資料の鮮度を維持するための再編成

とりわけ哲学分野では古い資料が多く、新しい資料を収集する必要があるが、適切な資料の出版が少ない状況で、下半期にも取り組む必要がある。

蔵書再編成に伴う除籍の計画的実行

他館と比べると除籍の冊数が半分程度で、それも年度末に集中的に取り組んできたが、年間を通して計画的に実施したい。

2 講座、講演、行事の開催

「絵本を作り、その絵本でお話し会」を開催する企画が進行

社会教育センター経由で申し入れがあり、高円寺の社会教育団体の一つ（30、40代中心グループ）と連携して事業を展開中で、このグループで物語を作り、画家に依頼して絵本を作成し、その絵本でお話し会を開催しようという構想。最初の絵本が制作されたが、来年2月にお話し会を開催する方向で計画中。

3 快適な読書環境の整備

図書館の古い施設・設備の更新

たとえば、閲覧者用椅子の老朽化、夏期に熱気が出る原因となっている3階の天井の18枚の天窗など読書環境を阻害している要因の改善を図る必要がある。

利用者を書架まで導入するための施設・設備上の工夫

高円寺図書館の予約受け取りカウンターは入り口に隣接しており、利用者の多くは、玄関から数歩の距離のカウンターで予約本を借りだして帰って行く。もしくは、カウンター脇にあるOPACで資料を検索、予約して帰って行く。それらの人たちが書架まで行き多くの蔵書を手にとってもらえる雰囲気のある書架づくりを目標にしたい。

宮前図書館長 宮前図書館は今年指定管理者が交代しました。最初に前年度を総括し、次いで今年度上半期の取組状況を報告します。

前年度は、各種イベント、地域連携において非常に高い業績を上げましたが、学校連携については、学校司書などと接触したが、それといった業績を上げることができなかったようです。そういった意味で、学校との連携が、私ども新しい指定管理者の課題になるのではと考えています。

平成25年度の上半期の取り組みは「図書館サービス基本方針」の実現を目指した形で運営を当然行っていきますが、私どもは宮前図書館運営の最初の年ですので、まずは地域連携を重点に置いて当たっていきたいと考えております。以下特筆すべき取り組みについて報告します。

【以下箇条書きにまとめる】

1 講座、講演会、行事の開催

前指定管理者が行っていた月2回程度の講演や講座を実施

2 ボランティアとの協働

松庵小学校支援本部（同校父母会の有志によって組織）と連携し、小学校1年生の社会見学のプログラムとして図書館（休館日）を半日解放

この事業を「学校・学校支援本部・図書館」の三者協定の形で実施できるように検討

3 人材育成・研修計画：図書館スキル研修だけでなく、杉並区立図書館業務の確認を中心にした内部研修の重視

4 広報・情報発信：ツイッターによる情報発信

この運用に当たって中央図書館と協議し、宮前図書館独自の情報発信という形で実施している。

5 取り組みに対する評価と課題：地域の利用者への積極的なコンタクト

成田図書館

成田図書館長 平成24年度の成田図書館の重点課題は中高齢者の生活支援に対する活動でした。図書館の定例行事のほかに、中高齢者の興味・関心の高い、健康、趣味、金融など分野については、外部講師を招いて講座、講習会を開催いたしました。また、情報提供では、80歳以上で活躍されている方の本を選び、紹介文を書いてまとめたブ

ックリスト「大人の青春読本」を作成すると同時に、展示も行い、貸し出しの促進につながりました。課題は、地域の幅広い世代の方々が集う図書館となるように、積極的、効果的なPRをする体制づくりが必要であると総括しました。

平成25年度上半期の取組状況ですが、事業計画では利用者第一の運営をモットーとし、区民の皆様への情報提供、学びの場としての情報拠点を目指しております。また、前年度に引き続き、中高齢者の生活支援を重点課題とし、分担収集では芸術分野を念頭に置いた蔵書の充実に努めてまいります。以下特筆すべき5項目について説明します。

【以下箇条書きにまとめる】

1 レファレンスの充実：レファレンスの研修と担当カウンター設置の必要性

図書館施設が全体的に狭隘で、サービスカウンター回りで多くの、さまざまな業務が交錯して行われており、レファレンスにかかわる相談をしにくい状態にあり、改善が必要。

2 快適な読書環境の整備

杉並区で最小の図書館で、各利用施設の改善が第一

たとえば、閲覧席4席、児童席8席、新聞コーナーは10名程度の規模であるが席は直ぐ埋まってしまうなど、読書環境整備には課題が多い。

3 他の機関との連携

東田中学校の学校司書の協力を得て、同校生徒が選んだYA本にPOPを付けて展示

同展示は、YA世代の読書活動を推進するために企画したが、一般の利用者に大変好評であった。

4 人材育成・研修計画：レファレンスサービス研修の優先

5 広報・情報発信：交流団体などを通じてその体制づくりに努力

6 取り組みに対する評価と課題

年間の計画に基づき責任者とスタッフの協力

課題は、広報、宣伝、PRへの取り組み

西荻図書館

中央図書館次長 西荻図書館については私が報告します。

西荻図書館は24年度、地元由来するテーマを掘り下げることにより主眼を置いて事業を行うなど、地域優先の図書館の運営を行ってきました。今後の課題としては学校司書やボランティアとの連携を進めることです。

25年度は「図書館サービス基本方針」の実現に向けて取り組んできますが、以下に上半期の運営状況を説明します。

【以下箇条書きにまとめる】

- 1 資料の充実：蔵書の更新、とりわけ国語教科書に掲載されている資料の収集
- 2 誰もが利用しやすい環境：配架の工夫
- 3 レファレンスの充実：レファレンス技量の向上のための研修
- 4 講演、講座、行事の開催(地域ボランティアとの協働の下で)
 - 地元の方による研究発表の導入
 - 小学校ボランティアのための読み聞かせ講座の実施
- 5 子ども読書活動
 - 児童図書の実践
 - 夏期休暇中の小学生対象の各種講座の実施
- 6 他機関との連携：連携を目指した近隣の小中学校の学校司書との懇談会の開催

阿佐谷図書館

阿佐谷図書館長 今年2月に行った開館20周年記念事業をやり遂げたことが平成24年度の大きな仕事でした。どの世代にも楽しんでいただくことをコンセプトに企画した事業は、どれも手応えがあり、平成25年度への糧となりました。

今年度の年間基本方針は、基幹業務の確立と危機管理意識の徹底、ボランティアや学校司書など地域の方との連携強化、関連機関との協働事業や阿佐谷の情報発信を行うことを骨子としております。以下に、とりわけ力を入れたこと中心に説明します。

【以下箇条書きにまとめる】

- 1 人材育成・研修計画：細分化したカウンター研修、レファレンス研修などの定期的な実施
- 2 ボランティアとの連携
 - 読書活動団体の読書会や朗読会との連携強化
 - 関連団体の施設利用が5団体から7団体に増加。

職員向けの読み聞かせ研修をボランティア対象に講習会として拡大

ボランティアとの協働の読み聞かせイベントを実施している。

司書連絡会を通じた学校司書との連携

意見交換や図書館行事の広報へのご協力、新1年生の図書館バッグ配布とオリエンテーションの実施、中学校への出張、POP講座、中学生による図書館でのおはなし会開催など着実に連携を強化。

3 関連機関との協働

杉並区産業振興センターと連携して「中小企業診断士による起業・経営相談会」（月1回）

杉並区就労支援センターに対する関連資料の団体貸し出し

「生誕100年新美南吉」展の開催

新美南吉記念館（愛知県半田市）との協力を得て記念館所有のパネル展示、DVD上映のほかに、資料の展示、児童映画の上映、記念館とタイアップしたオリジナルの名刺の配布など。子供から大人まで多くの方が来館した。

4 取り組みに対する評価と課題

資料収集の充実、書架や館内サインの見直し、読書環境の整備

阿佐ヶ谷図書館情報紙の発行（2月予定）

南荻窪図書館

南荻窪図書館長 24年度は、利用者によりご要望のあった参考資料コーナーを設置、利用者要望把握と職員間の情報共有のためのレファレンスノートの作成、スキル向上のための全員参加の研修などで実績を挙げました。ただし、作家の追悼特集や時事に関する特別展示の頻度が低かったことが課題として挙げられます。

平成25年度は、地域に密着し、地域の多種多様なニーズに応えることができる、親しみがあり、かつ専門性を兼ね備えた地域のコミュニティーの場となりうる情報発信の場を育むべく、新しい事業に積極的に取り組んでいます。上半期取組状況を以下のように報告します。

【以下箇条書きにまとめる】

- 1 資料の充実：環境関係資料とあかちゃん向け子育て支援資料の収集
- 2 誰もが利用しやすい図書館

明るく親しみやすい丁寧な接遇と利用者への声かけの励行

児童書架の案内板（平仮名表示）を、館の重点課題「環境」をイメージして木の形で作成

3 レファレンスの充実：館内にポスターを掲示し、レファレンスサービスを案内

4 講座、講演会、行事の開催：開館20年記念「地域ゆかりの著名人 与謝野晶子・鉄幹」展示を開催

同時に、全国の与謝野晶子関連の文化館などからパンフレットを収集し、利用者に提供。

5 ボランティアとの協働

「あかちゃんえほんのじかん」（毎週水曜日のおはなし会と第3水曜日）において職員とボランティアとの協働

ボランティア劇団による人形劇の公演（毎年9月に行っている）

6 快適な読書環境の整備

ヤングアダルトコーナーの利用しやすい書架作り

ヤングアダルトコーナーに図書館見学を訪れた中学校生徒たちのおすすめ本やその見学の模様が紹介された中学校の図書館だよりを展示。

7 子ども読書活動の推進

小学生向けに学習の推進のためブックトーク教室

夏休みのスタンプラリー

8 他機関との連携：宮前中学校と連携し、図書委員の見学を受け入れ

同生徒たちが図書館の図書の配架や案内板を参考にして学校図書室に生かす。

9 人材育成・研修計画：スタッフの接遇研修並びに個人情報研修の実施

10 広報・情報発信

図書館ホームページへの行事等の掲載

近隣幼稚園、小学校、中学校などへのチラシの配布

並びに児童向け情報誌の企画、検討

11 取り組みに対する評価と課題

児童書架の案内板の一新、ボランティアと協働の定期的おはなし会、地域ゆかりの与謝野晶子・鉄幹展示、学校司書との連携で図書館見学やヤングアダルト向け情報誌の配布の増加などは評価

近隣の障害者・高齢者施設への働きかけ、ボランティアの現状の調査・情報交換、小中学校との定期的な情報交換の場の設置などが達成できていないところが今後の課題

下井草図書館

下井草図書館長 平成24年度の運営で評価できるものは、近隣の中学校の学校司書、学校教諭と協力した下井草図書館ツアーで、利用案内と調べ学習の手法の講義を組み合わせた学校支援事業です。受講した中学生には、春休みの宿題として図書館を使っでの調べ学習のレポートが課せられております。レポートは学校で採点され、優秀作品を図書館で展示しました。この事業は学校側からも高く評価されており、今年度も今月5日から8日まで4日間実施しました。中高生向けの講座として上橋菜穂子先生、一般向け講座として池内紀先生の講演会を開催したことも評価されてよいと考えますが、総じて中高年向けや高齢者向けの展示・イベントが弱いことが課題と反省しています。

平成25年度は、学びの場としての図書館、知の共同体としての図書館、楽しい交流空間としての図書館を目指して、事業計画を設定してこれまで取り組んできました。

【以下箇条書きにまとめる】

1 資料の充実

古今東西の定評ある著作を文庫・新書で収集する「名作文庫コーナー」の拡充

なお、このコーナーは中高生はじめ、幅広い年代層に好評を得ている。

2 誰もが利用しやすい環境の整備：1階フロアの書架を利用しやすくするため書架見取り図を作成（現在改良版作成中）

3 レファレンスの充実

「児童本に関するレファレンス研修」（委託会社主催）等に職員を派遣

4 講座、講演、行事の開催

職員によるおはなし会（水曜日）とボランティアによるおはなし会（土曜日）を開催

児童向け工作会（土曜日）の開催

この工作会は当館が最も得意とするイベント。

- 5 ボランティアとの協働：ボランティアグループと協働のスペシャルおはなし会
(年3回)の開催に関し、ボランティアグループと打ち合わせ(開催時期、実施方法等多岐にわたる意見交換)
- 6 快適な読書環境の整備
小・中学生に対する多目的ホールの開放を夏期休暇中の全日に拡張
自転車の整理、整頓、駐輪マナーの改善のための駐輪場の巡回の強化
- 7 子ども読書活動推進
小学生を対象に「夏休み宿題おたすけブックトーク」を開催
自由研究や読書感想文などの宿題の調べ学習を中心とした職員による‘おたすけ’
- 8 他の機関との連携
区立中学生の体験学習の受け入れ
都立高校生の職業インタビューへの対応
井草地域区民センター協議会や地域懇談会に出席し、図書館活動の周知を図る
- 9 人材育成・研修計画
窓口マニュアルの改定(3月改定)の確認の講習会、破損本の修復方法講習会
これら、講習会はベテラン職員が講師となり若手職員にレクチャー
杉並区「五つ星運動」の研修会
- 10 広報・情報の発信
一般向け広報誌(月1回)、児童向け広報誌(月1回)、YA向けの広報誌(年4回)発行
来館を促すため当館ゆるキャラのモグラのしもいちくん、シモーヌちゃんを
児童向け案内の表紙に
- 11 取り組みに対する評価と課題
近隣の小・中学校との連絡強化が今後の課題

高井戸図書館

高井戸図書館長 24年度は、高井戸中学校との連携がさらに進み、毎年、新1年生は、直通のドアから高井戸図書館に入って全館を見学しています。そこで公共図書館の使い方、YA広場の使い方を説明しますが、生徒たちはいま学校の一部のような感

覚で図書館を使っています。また同校と協働で同校1年生と地域の方を対象に阿刀田高先生の講演会を行うことができたのも大きな成果でした。さらに図書館システム変更後にレファレンスカウンター設けましたが、それを契機にレファレンス件数が増加しました。年度末のことですが、高井戸図書館サポーターを結成することができました。25年度以降の事業に反映できると考えております。

主要な25年度の上半期の取り組みは、以下のとおりです。

【以下箇条書きにまとめる】

1 講座、講演、行事の開催

開館15年記念として藤沢周平の魅力を探るテーマにした講座、講演会、パネル展示などを実施

ミニギャラリーの開設

地域区民の生涯学習の発表の場や趣味の会での作品展示の会場として提供
交流を図るため展示のところにメッセージカードを置き、出展者へのメッセージをもらうようにしている。

2 ボランティアとの協働

高井戸図書館サポーターの始動

サポーターは高井戸図書館の利用者の方から公募で10名を選出。地域性を生かした事業展開への協力を得る

映画会以外のほとんどの催事はボランティアとの協働による開催

それらの事業で協働したボランティアの数は55人に達している。

3 評価と課題

職場体験やインターンシップの受け入れ（8校で、32日間、100人以上）、映画会の活性化（毎回30～40人の参加、8月の映画会は満席）、英語と中国語の利用案内（22年度制作）に加え韓国語版を作成、多目的ホール稼働100%などは評価

子育て講座の一環として 育メンパパ 対象の「演じてみよう！お父さん！」とマタニティ対象のプログラムに参加者が少なかったこと、高齢者向けのパソコン講座の未着手が課題

高井戸中学校以外のYAサービス拡大が課題

この関連で、「たまには中学時代に戻ってみませんか」のキャッチタイトル

で一般利用者の高井戸中学校図書室の利用を試行的に行った。

方南図書館

方南図書館長 まず平成24年度の総括について説明します。保育園と併設という立地条件で従来から児童サービスに重点を置いた運営をしてきましたが、その体制がおおむね定着しました。その反面で、一般向け、ヤングアダルト向けの行事とサービスがやや希薄になり、今後の課題になっていると感じております。

平成25年度は、第1に学びの場として偏りのない蔵書構成と最新の情報の提供を、第2に知識習得の媒体として、第3に地域に密着した図書館の機能を目指して事業計画を立て、それに基づき上半期の事業に取り組んできました。

【以下箇条書きにまとめる】

1 資料の充実

全体的に計画的でかつ偏りのない購入を行い、新鮮な情報を提供
分担収集である社会科学、経済の積極的な収集に加え、動きのある棚管理に取り組む
協議会で指摘された子育て支援の棚の見直しについては、関連のパンフレット、リーフレット類を関連施設、団体から収集・提供

2 快適な読書環境の整備

ベビーカーや車椅子利用者のために書架の間を拡張
館内掲示を充実させ、館内案内スタッフの設置
利用者が求める資料に的確にたどり着けるようなレファレンススキルアップ研修

3 講演、講座、行事の開催

重点課題（子育て支援コーナー）を意識した親子参加型行事を開催（2回）
YA世代（中学生）を対象に青年海外協力隊（JICA）の協力を得て行事開催

夏休み前から中学校、「ゆう杉並」などYA向け施設に積極的に働きかけた
が、結果的には中学生の参加は少なかった。

4 ボランティアとの協働

定例のおはなし会（月平均6回）の開催

ボランティアが主催の催し物（上半期に3回）を実施

いずれも50人から80人近い集客で盛況であった。ボランティアの出し物の完成度は非常に高く、図書館職員もかなり刺激を受けている。

5 子ども読書活動の推進に

あかちゃん向けのおはなし会を0歳児クラスと1・2歳児クラスに細分化

各クラスとも10組から15組ほどの参加があり、プログラムとして定着。

「わくわくひろば」の名称の下で、従来の映画会や工作会を実施

6 人材育成・研修計画： 職員それぞれが専門性を高めるため上半期は全部で八つの研修に参加

7 情報の発信： 広報すぎなみやホームページの活用、図書館だより作成の他、近隣施設の児童館に方南図書館専用の掲示スペースを設置

8 取り組みに対する評価と課題： 以下の諸点が課題

除籍による蔵書の活性化

YA向けのイベントの開催方法の再検討

一般向けの行事、映画会の検討

劣化してきている館内表示の改善等

今川図書館

今川図書館長 平成24年度の総括については資料に記載のとおりですが、とりわけ子供の読書活動の推進を重要な課題と捉え、幼児、児童対象の事業に力を入れました。あかちゃんおはなし会は隔月実施を毎月実施に拡大し、出版文化産業振興財団の読書アドバイザーを講師に招いて開催した「赤ちゃんのための本の選び方」の講演会では、乳幼児を持つ保護者の方が熱心に耳を傾けていました。さらに、ゆうゆう館との併設施設という特徴を生かし、ゆうゆう館との共催事業を実施、夏には七夕飾り、冬にはお正月遊びなどによりまして、幅広い世代の方の交流の機会を創出することができました。

次に平成25年度上半期の取組状況ですが、区民の学びを支える場、区民の知を活かす場、区民の交流を支援する場としての役割を担うべく、資料に記載している図書館サービスの提供と特色ある自主事業を実施する事業計画に基づいて取り組んでまいりました。

【以下箇条書きにまとめる】

- 1 資料の充実
複本購入により蔵書の充実を図るとともに、保存庫への適切な移動によりまして、開架書庫の資料を閲覧しやすいように配架
- 2 誰もが利用しやすい図書館に向けて
幼児が利用しにくかった冷水器の前に踏み台を設置
館内表示の整備
高齢者施設併設のため高齢者対応研修の開催に向けて準備（ゆうゆう館と協働）
- 3 レファレンスの充実：
対応力の向上を目指した職員研修の準備
利用者向け調べ物ミニガイド（平成23年度作成）の改訂版発行準備
- 4 講座、講演会、行事の開催
今年度初めて、夏休み期間中に近隣の小学校図書館と連携した読書ラリーを実施（参加者700名以上）
- 5 ボランティアとの協働
毎月定例のおはなし会、あかちゃんおはなし会をボランティアグループと協働で実施
- 6 快適な読書環境の整備
西日が差し込む一般書架の窓に緑のカーテンを設置して閲覧席に日陰づくり
混雑時には2階ホールに社会人専用の閲覧席を設置
夏休み期間中に多目的室を小中学生に開放
- 7 子ども読書活動の推進
中学生向けの利用案内を作成、近隣三つの中学校の全生徒に配布
来年度からは新1年生に配布を予定。
本の福袋
夏休みの読書ラリー
図書館だよりに中学生による本の紹介文を掲載
- 8 他機関との連携： 併設のゆうゆう館や学校司書との連携に取り組み
- 9 人材育成・研修計画：中央図書館や他の地域図書館主催の研修や委託事業者の研

修会に参加

- 10 地域の掲示板「でんごんくん」に図書館ニュースを掲出
- 11 取り組みの評価と課題：参加者や利用者が少ない事業や事業自体の認知度が低いものの広報やPR方法の工夫が課題

中央図書館次長 中央図書館を含めまして全13館の上半期の取組状況についての説明でございました。

§ 報告事項 2：子ども読書活動推進計画の進捗状況について

中央図書館次長 資料3によって、子ども読書活動推進計画の進捗状況について説明します。

まず家庭・地域における取り組みについてですが、杉並区立図書館全館で実施しているあかちゃんタイムは、各館で開催回数の増加、広い場所の活用、土曜日開催など、参加機会の拡大などを図ってきています。また、参加者の増加に向けて、あかちゃんおはなし会は、0歳児向け、また1・2歳児向けなどに細分化して内容を充実して取り組んでおります。さらに児童館ではゆうキッズの事業の中で乳幼児への読み聞かせなどを実施しており、日常的な読み聞かせの活動が活発に行われるよう各方面で努力しています。

学校における読書活動の推進については、昨年度全小・中学校に学校司書が配置され学校における読書活動の推進が図られております。その中で、ブックトークなど学校ごとの特色ある活動も増えています。また、子供園でも、所蔵絵本の更新、絵本コレクション配置レイアウトの変更などを行ったという報告を受けています。

図書館の取り組みでは、調べ学習の支援に向けたブックトークを開催し、また、夏休み期間については多目的ホールを学習室として開放することなども行ってきました。また、中高生向けのサービスの充実という点では、中央館ですが、演劇ワークショップを初めて開催しました。そのほか各図書館ともさまざまな工夫に努めておりまして、引き続きヤングアダルト世代の気持ちを酌んだ事業展開を考えていきたいと思っております。

情報発信につきましては、図書館ホームページや各館での図書館だより、区広報、いろんな媒体を適宜活用して情報発信を図っております。特に夏休み前、科学館や郷

土博物館、そしてスポーツ施設などを担当する社会教育部門で夏休み情報というのを作成しているんですが、今年はより見やすい工夫をして、配布いたしました。

最後に、関係機関との協力、連携という点でございますが、子ども読書活動推進委員会で中学校の朝朗読会の見学を行い、また、当該校で委員会を開催いたしました。そして、初めてですけれども、ビブリオバトルの研修を行いました。また、このほか、科学館での著名な天文学者である家正則氏の講演会に合わせまして、中央館そして柿木図書館で、天文学等にちなんだ、また、家正則氏にちなんだ展示等を行って、中高校生の科学に関する興味を拡大するような取り組みも行ってきました。今後も生涯学習部門全体で力を合わせまして広がりのある事業を計画していきたいと考えております。

§ 報告事項に対する質疑

会長 通常、報告事項を終えて関連の質疑を行う順番になりますが、本年度上半期の運営状況報告で多くの時間を費やしました。まだ会議は審議事項を一つ残しております。そこで提案ですが、本日の 2 つの報告事項についての質疑は次回第 4 回協議会にて行うことにしたいと思います。

そこで、まず図書館次長に尋ねますが、次回会議の次第にそれを入れる時間的余裕はあるでしょうか？

中央図書館次長 それは可能だと考えます。

会長 それではそのようにしたいと思います。皆様よろしいでしょうか？

了承

§ 審議事項：平成 26 年度杉並区立図書館経営評価について

会長 それでは、審議事項の案件についての説明をお願いします。

中央図書館次長 平成 26 年度杉並区立図書館経営評価については、昨年度第 4 回目の協議会において審議され、評価委員会の設置と、経営評価の目的や方法等について了解されました。今回の協議会では、図書館経営評価委員会委員の構成について審議していただきたいと思います。

まず評価委員会は 6 名程度で構成したいと思っています。委員会は 26 年 9 月から 27 年 1 月ごろまで、およそ 5 回ないし 6 回程度開催する必要があるものと考えておりますが、

ここでは、委員の選出ではなく、6名程度で委員会を構成することを了承頂きたいと考えております。なお評価作業の手続・手順や日程の詳細は今後詰めたいと考えています。

《審議事項に対する質疑》

副会長 資料の「評価方法等」の「区立図書館評価表(1)」に項目 から がありますが、「子ども読書活動の推進」が「目標実現のための基盤整備づくり」という項目に分類されています。その上には、「楽しい交流空間」としての図書館」があります。たしかに明確に区分できないところもあるのですが、子ども読書活動の推進は、それ自体図書館サービスの重要な内容であって、図書館の基盤整備づくりの話ではないように思うんですけども...

企画運営係長 昨年の12月にお示しした経営評価表の中で、子ども読書活動推進については、目標実現のための基盤づくりということで承認頂いたので、そのように類別しています。

副会長 そうすると、多分そのときに、私を含めて見落とししたか、特段の意見がなかったのだと思うんですが、この「図書館サービス基本方針」の「取組推進のための基盤整備」のところを見ると、関係機関との協働、専門家の育成・活用、積極的な広報・PR活動という三つが柱になっておりますので、子ども読書活動の推進をここで整理しているようには、少なくともこの方針の構成の上では、そうは見えないんですね。

ですから、前にそういうふうに整理したとしても、もう一回見直してみて、もし改めたほうがいいということであれば、改めても構わないのではないかと思います。

中央図書館長 昨年度のこのことを審議した段階ではそういった形で項目の分類をサービス基本方針にのっとってやっていったわけですが、今回ここに出した事務局案は評価委員会でさらに議論して決めていく必要があるように思います。ですから、どちらの視点から評価していくかについても、ここでは柔軟に考えていいと考えます。

副会長 柔軟に対応していただけるということですので、それはお任せしたいと思います。その委員の皆さんの議論にですね。ただ、私が意見を申し上げるとすれば、子ども読書活動というのはそれ自体が重要な図書館サービスの一つであって、何かのための準備的なものというような、そういう位置づけではないと思います。

中央図書館長 実は、この子ども読書活動の推進計画に盛り込んであることというのは、かなり範囲が広くて、いろんな分野にまたがる部分があると思うんですね。基盤整備の部分もありますし、それから、サービスそのものの内容がこの3本柱の中に入ってくるもの等がございますので、一つのこの柱の中に入れ込むのが難しいような、かなり広い計画になっている、そういったこともございますので、その辺の仕分けは、例えばいろんな柱の分野に子ども読書活動というのがかかわってくる、そういう仕分けもあるかもしれませんし、一つのところにおさまらないというそういうものもあるかもしれません。それについては少し精査をして、今後、体系をまとめていきたいというふうに思っております。

委員 経営評価に関してですが、たとえば蔵書の関係とか、資料提供とか、レファレンスなどの評価については、実際に行われている状況の裏面に何があるかを視ていかなければならないと思うんです。その場合、評価の基準が重要になります。それをどう設定するか、どういう指標化をするかで全然評価の結果が変わってくるのではないのでしょうか。

公共施設などではよくあることなのですが、貸し出し数が増えればいいのか、来館者数が増えればというような、数値指標だけで公共施設のサービスを評価することがありますが、図書館経営の評価はそういうことでいいのかと思うんです。それは図書館に限ったわけでもないんですが。

社会教育の施設は、コンテンツといいましょうか、どういう本がどのくらい借りられているのかとか、どういうタイトルの本がどれだけそろっているのかとか、そういうことが大事で、本当はそこまできちんと評価しなきゃいけないのかなと思います。

たしかに時間的にそこまできっちりできないのかなとは思いますが、公共サービスの数値的な評価指標で図書館のありようというものを評価しないでほしいと、私は考えています。そういう意味では、いろいろ工夫して、地域の知の拠点の一つとして機能している図書館のコンテンツを評価したいと願っています。

会長 そのことは、経営評価委員会が形成されてから、委員会でいろいろと考える上での重要なポイントだと思います。

杉並区立図書館の経営評価のこれまでの経過で言うと、評価すること自体は不可欠なことだが、これまでのように統計上数字が上がったとか下がったとかということなどで最終的な判断を評価していいのだろうか、という反省がありました。たしかに経年

変化を素早くとらえるために統計調査を継続して行わなければならないことは事実ですが、それだけで不十分だとすれば、どうすればいいのだろうかということになった。そこで新しい方式を検討する必要があるということで、前期 2 年ほどかけて議論され、今日ここに提案されている事項に繋がる経営評価の基本型ができあがったのです。

ですから、具体的に何をどう評価するのは、これから設置される委員会でこと細かく検討されていくことになるのだろうと考えます。いま提起された蔵書内容の評価基準なども評価作業を実践する場合に避けられない重要事項でなければならない。しかし、その問題は、たとえば公共図書館の蔵書に誰のためにどのような本がどれだけ収められていて、日常的に出されるたくさんの本の中から誰がどのように選んだらいいかといったことの物差しを決めることですから一朝一夕にはいかないだろうと思います。ですから、経営評価というのは、図書館運営のさまざまな要件の一つ一つについてそういう物差しを少しずつ、言ってみれば試行錯誤しながら決めていきながら、その時々図書館運営の状況の適否を判断して、改善すべき事柄や進展すべき方向を提言していくことになるのではないのでしょうか。

中央図書館長 たしかにこれまでやってきた経営評価は、数値による成果の判断が中心だったわけですが、いま杉並区立図書館は「図書館サービス基本方針」を持っています。ですからそれに沿って、各館の特色を生かした目標、それから事業計画を設定して、その計画に対して達成度がどのくらいまで行ったのか、その成果を評価するというのが今回の新しい評価の仕方の基本になります。その上で、そうは言っても基本サービスの方針に盛られた抽象的なものだけで、蔵書やレファレンスの質を評価できないのではないかとありますので、「評価表の(2)」を用意し、蔵書の点であるとかレファレンスの点で、数値化できるものについてはできるだけ数値化して、それを手がかりとして質的な面についても評価する、と大枠では考えております。

会長 何かほかの観点で意見、あるいは質問はありますか。

他にないようでしたら、以上の議論を踏まえて、経営評価委員会を6名程度で構成すること認めていただけますか。と。

(了承)

会長 次回の予定を決めなけれなりません、次第作成に際して、今回の会議では時間がなくてできなかった上半期の運営状況報告に対する質疑を含めるようにして下さい。

中央図書館次長 そのことについて質問事項をメール等で事前、できれば年内に頂けると、議事の進行が円滑に行くと考えますが、いかがでしょうか。

会長 それは結構ですね。それでは皆さんご面倒でもそのようにお願いします。

中央図書館次長 次回は1月25日（土曜日、14.30-16.30）に行いたい考えています。

会長 では、皆さんそのようにご予定下さい。

これにて、会議を終了します。

【以上、会議速記録により会長が編集・整理】